

交通政策審議会 陸上交通分科会 鉄道部会（第6回）

平成20年6月19日（木）

【高橋企画室長】 時間前でございますが、皆さんおそろいでございます。交通政策審議会陸上交通分科会、第6回鉄道部会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しいところお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。部会長に議事をお願いするまでの間、暫時進行を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

本日は委員の方々、臨時委員の方々、15名の方々のうち11名のご出席をちょうだいしております。交通政策審議会令第8条第3項が定めます会議開催の定足数は8でございますが、それを満たしておりますことをご報告申し上げます。

お手元の資料の確認をさせていただきます。資料一覧、議事次第、配席図、委員名簿、それから資料の右上であります。1-1としまして交通政策審議会陸上交通分科会鉄道部会提言（案）と、ちょっと分厚い冊子がございます。それから資料1-2としまして、似たような形の資料になってはいますが、鉄道部会提言別冊資料という、ポンチ絵とありますが、参考図をまとめた資料をつけてございます。それから資料2といたしまして、A4横紙でございますが、参加型鉄道ホームページの立ち上げ（案）という資料をお配りしております。資料、議事要旨、会議の議事録を公開することとさせていただきたく存じます。ご了解いただければ幸いです。

それでは、これ以降の進行につきまして部会長をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【森地部会長】 どうもお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。早速議事に入りたいと思います。

議事（1）提言の取りまとめです。前回ご議論をいただきましたことを踏まえて、山内小委員長ともご相談の上、提言（案）として修正をいたしております。まずは、前回から修正された部分を中心に、事務局からご説明をお願いいたします。

【高橋企画室長】 部会長、ありがとうございます。それでは資料1-1、冊子に基づきましてご説明申し上げます。前回の部会でちょうだいしたご指摘等を踏まえまして修正いたしました。ご説明が重なるといけませんので、私のほうでいただいたご意見で直させ

ていただいたものを中心に、簡単にご説明申し上げます。

まず、表紙でございます。ちょっと副題をつけてございます。「鉄道がつなく、エコフレンドリーな生活圏」、環境に優しいという意味で使わせていただいております。括弧書きで「鉄道エコ生活圏」という略称をつけておりますが、このような生活圏の創造に向けてというサブタイトルをつけさせていただいております。

おめくりをいただきまして、4ページでございますけれども、地方の活性化あるいは都市の魅力の向上の必要性で、これは部会で直接ちょうだいしたご意見ということでは必ずしもありませんけれども、「地域あるいは都市における望ましい交通のあり方について議論を深める」ということを確認的に書かせていただいたのと、「相次いで開業した都市鉄道路線は、都市における人の流れを劇的に変え始め、沿線の暮らしや文化に新たな息吹を吹き込んでいる」といったような、昨今の新しく開業した都市鉄道路線などを想定して、「都市が直面する課題」のところに少し書き方を加えてございます。

6ページでございます。「鉄道ネットワーク・サービスの充実に向けた基本的視点」、この柱書きのところに、これも確認的な記述でございますが、「ネットワーク・サービスの充実を図っていくためには、都市や地域において、どのような交通のあり方が必要であるか、また、その中で、鉄道がどんな役割を果たすべきか」という視点を書かせていただいております。

それから6ページの下の方で、前回の部会でご指摘をちょうだいしました点で、「鉄道で過ごす時間と鉄道空間の質の向上」というところがあります。移動手段として鉄道を使う場合と、鉄道に乗ること自体が目的である場合という、前は殊さら前書きでごちゃごちゃ書いていたんですが、ここはもうさらっと導入のところ流させていただくような形にさせていただいております。

それから7ページの下の方に、「観光利用の促進」のところ、少し言葉を加えさせていただいております。観光の利用の促進ということで、パノラマ地図とか、あるいは「観光絵屏風」のようにビジュアルな発信に努めようとか、少し言葉を足させていただいたりしております。

それから8ページの下の方でございます。これは前回ご意見をちょうだいして、「漢方薬」というのが、即効性のものもあるし、少し効くのにかかると時間がかかるものもある、いろいろなものがあるというお話をちょうだいしました。「いわば漢方薬のように」というのはとっても意味が通じますので、とらせていただいて、「息長く、鉄道の未来を照らす光となる

よう期待されるものである」といったような書き方にさせていただいております。

それから8ページの下から9ページの上のところでございますが、鉄道ネットワーク全体として機能を発揮するという、それから他の交通手段との連携の強化といったような視点を少しまた確認的に記述を増やさせていただいております。それから、同じ項目でございますが、自転車や歩行者のモビリティの向上ということを書かせていただきましたが、自転車や歩行者に加えまして、車いすなどのモビリティの向上といったような視点を加えさせていただいております。

10ページをおめくりいただきます。ここは個別の事項のところ、鉄道サービスのあり方のところでございます。2.であります、国においてもバリアフリーにきちっと積極的に取り組むという姿勢を書いたほうがいいというご意見をちょうだいしました。「国においてもこれを促進するよう取り組むことが必要である」という記述を最初の の一番最後に入れております。

それからバリアフリーを進めていくときに、エレベーターとかエスカレーターとか、施設だけをつくるのではなくて、その使い方をきちんとバリアフリーの観点から考えていかなきゃならないというご指摘をちょうだいしました。「2.鉄道サービスの高質化と多様化に向けた具体的展開」の3つ目の であります、「バリアフリー化された施設の案内表示に加え、社員に対するサービス・介助の教育訓練を行い、利用者への細やかな対応を行うなどソフト面での取組みを進めること等により」という記述を加えさせていただいております。

それから、同じような考え方ですが、11ページの3.で、情報通信技術の記述をさせていただいているところがございます。1つ目の の最後のほうですが、「その際には、バリアフリーの観点にも配慮するなど、全ての人が利用しやすいものにすることが重要である」という視点を書かせていただいております。

それからその次のところ、同じページに「ICカードによる利便性の向上」というところがありますが、1つ目の の中ほどでございます、「乗車券をその都度購入することなく鉄道を利用できることから、鉄道利用のバリアフリーの観点からも優れたツールである」というような記述を入れさせていただいております。

それから12ページでございます。同じサービスのところ、同じサービスでございますが、「『安心・信頼』できる鉄道空間の確立」というところで、2つ目のまとまりで、「関係者の連携・協力による粘り強い取組み」でございます。ここで、会議が終わってからご指摘をちょうだいしま

して、鉄道事業者さんが中心とはなりますが、「警察当局との協力も進めつつ」という文言を加えさせていただいております。以上がサービスのところでございます。

それから、少しおめくりをちょうだいしまして、17ページであります。都市鉄道のネットワークの議論の中で、今日はおいでになっておられませんが、家田先生からちょうだいしました「更なるシームレス化を実現するための多面的な検討」という項目がございます。ここの2行目でございますが、「ターミナル駅における共通案内サインの整備等、更に改善すべき問題も残されている」という問題認識を書かせていただいております。

それから18ページであります。「8.駅の魅力の向上」という項目がございます。その2つの小項目のところではありますが、「駅の機能の高度化」というところで、リードの文章を加えました。「都市鉄道は、沿線の住宅開発や商業施設の事業展開と相俟って発展を遂げてきたところである」という認識をまず書かせていただいております。

それからその中ほどであります。「駅やまちが賑わい、環境に優しい鉄道の利用が促進されるよう期待される」、あるいは「今後、鉄道事業者に加えて地方公共団体が中心となって、利用者や住民のニーズを的確に把握して取組みを進めるとともに、関係者が多岐にわたる場合も多いことから、これらの関係者のコンセンサスを円滑に形成するための仕組みづくりについて、更に検討を進めることが重要である」、このようなご指摘を踏まえた記述を入れさせていただいております。

それから23ページに飛んでいただきます。貨物鉄道のところでございます。最初に23ページ、第7節の1.の最初の であります。静脈物流あるいは循環型社会、このような観点からのご指摘をちょうだいしましたので、「貨物鉄道は、人々の暮らしや経済活動を支える生活物資や産業物資、循環型社会を支える静脈物流等の輸送を担って」といったような役割の記述を加えさせていただいております。

あと、若干の修辞上の訂正がございますが、ネットワーク・サービスにつきましては以上でございます。

それから、技術のところについて簡単に触れさせていただきます。28ページでございます。「安全で安定した鉄道輸送の実現」の中で、「踏切の解消・改良」という項目につきましてご意見をちょうだいしております。28ページの真ん中辺でございます。「踏切の解消・改良」の中で「遮断時間の短縮を図る『賢い踏切』の導入、歩道が狭隘な踏切の拡幅等による踏切の解消」といったような例示を出させていただいております。

それから29ページでございます。「利用者等の理解と協力による事故防止対策」という

流れの中で、バリアフリーの観点は大変大事であるというご指摘をちょうだいしました。29ページの「利用者等の理解と協力による事故防止対策」の2つ目の でございます。「このため、まず、列車の接近等を知らせる踏切保安設備や案内放送の充実、踏切接近時のカーナビによる注意喚起の充実などとともに、バリアフリーの観点到十分配慮しつつ」という文言を入れさせていただいております。「非常停止ボタン等、いざという時に利用者等が使用する安全設備の設置位置や表示・形状を統一し、使用方法のPRを図ること等により」、これも加えさせていただきましたが、「全ての利用者等が迷わず、また、ためらうことなく使用できるよう配慮することが必要である」と、バリアフリーの観点からの記述を入れさせていただいております。

それからちょっとページを飛ばさせていただきます。39ページでございます。ここは技術の最後の節の「新たな課題への挑戦を支えるための、人・組織・産業の技術力の結集と情報の共有化」という部分でございます。ご指摘をちょうだいしましたのは39ページの最初から2行目あたりでございますが、「技術業務を適切に遂行し」という文言を入れさせていただいております。これは「技術力を維持・継承するために最小限必要な規模を下回り」というオリジナルの記述があったわけですが、そこに加えまして、そもそも技術業務を適切に遂行するために、「ミニマム・マス」をきちっと確保しなければならない、このような目的で書かせていただいております。

39ページの真ん中あたりでございます。前回、「ノウハウ（暗黙知）」というような概念でご説明をさせていただいたところでございますが、ノウハウというのを暗黙知と書いておったのですけれども、暗黙知をノウハウというのはいり過ぎというようなご意見をちょうだいしまして、ご意見をちょうだいしました先生と少し会議の後にご相談をさせていただきまして、このような書き方に直させていただいております。タイトルを「鉄道技術の明確化・体系化」というタイトルにさせていただきます。

それから「技術者の技術の習得にあたって」と書いておりましたのを、「習得」を改めまして「継承にあたって」と書かせていただきまして、ノウハウというのをとりまして、「勘と経験で身につく知識」という意味での「暗黙知」、これによる継承が中心に行われてきたという現状にあるわけでございますが、個別の鉄道技術の明確化、あるいは分野横断的な鉄道技術の体系化、このようなことが遅れてきたということが現状認識としてあるということでございます。今後は、我が国の鉄道技術を次世代に着実に継承するという問題意識で、個別技術を明確化するとともに、個別技術を総合したシステム全体の技術について具

体的に体系化していく。これらによりまして、「暗黙知」を「形式知化」、いわゆる明確化と体系化を行うという意味での「形式知化」を進めていくというような整理にさせていただいております。

お時間をとりましてすみません。最後までございます。第5章の「終わりに」という記述でございます。ここは初めてお目にかけたところでございます。ポイントは、今まさに鉄道は大変大きな期待を受けておるわけでございます。「鉄道が自らの役割を遺憾なく発揮すべく、変革を遂げて、環境新時代を切り拓いていくことが強く求められている」という認識でございます。環境をはじめとする時代の要請にこたえるという意味での取り組みを通して、環境に優しい生活圏をつくり出して行って、次の世代に引き継いでいくことが極めて重要な鉄道の役割ではないかという認識を書かせていただいております。

「鉄道のご関係の皆様が変革をチャンスととらえて、国民の理解や共感を育みながら幾多の課題に積極・果敢に挑戦をしていくということを願って、部会としても、引き続き必要なフォローを行っていく」という考え方を書かせていただいております。

最後に、「鉄道が環境新時代を切り拓くように祈る」ということを書かせていただいて、「これからも、鉄道の明日を見守り、その揺るぎない発展に向けて、共に力を尽くして参りたい」といった、決意のような記述を加えさせていただきました。

簡潔に述べさせていただきましたが、以上でございます。ありがとうございます。文章のほうは以上でございます。

絵のほうは、若干だけ申し上げておきます。資料1 - 2でございますが、これは前回お話ししたものと基本的に最初の3枚は変えてございません。1枚目は、ネットワーク・サービスと、それから技術・安全と、両領域あるいは両領域のつながりのようなものを全体的に俯瞰した図でございます。これは提言の全体構造でございます。

2枚目のA3の横紙は、ネットワーク・サービスの全体構造、提言の全体構造を書かせていただいたものでございます。

3枚目、A3の横紙でございますが、これは技術・安全の全体構造を書かせていただいたものでございます。

それから最後に、新しいA4の横紙をおつけしております。右上に「具体的取組みの方向性(イメージ)」とございます。この最後の紙は、必ずしも今回の提言の全体をこの紙1枚であらわしたものではありません。表紙につけさせてもらう副題の考え方に基づいて、鉄道がつなく、環境に優しい生活圏という切り口でものを見たときに、具体的に一つの例

として、読んでくださる方がイメージを絵としてとらえられるように、「鉄道エコ生活圏」という切り口で見るとこんなふうな絵がかけてくるのかなといったようなイメージを出させていただくための資料でございます。

以上でございます。ありがとうございます。

【森地部会長】 どうもありがとうございました。以上の説明について、何かご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

【井口（典）委員】 タイトルに「鉄道がつなく、エコフレンドリーな生活圏」という副題がついていますが、「エコフレンドリーな」というのは正しい英語でしょうか。本文の40ページに、環境に優しいという意味で「エコフレンドリーな」と書いてありますが、ここも「環境に優しい生活圏」と表現しても構わないと思います。

【森地部会長】 どうぞ。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。エコフレンドリーというのは、たまたま今日持ってきておりますけれども、英米の原書のオリジナルで、環境に優しいという意味で使っておるケースが多々ございますので、言葉の問題としては大丈夫だと思います。

それで、確かに40ページで「環境に優しい」という言葉遣いをさせていただいております。基本的には環境に優しいという意味合いなんでございますが、例えばプレスの方もそうですし、外で見てくださる方が、「環境に優しい生活圏」と、ちょっと長いものですから、「鉄道エコ生活圏」というふうに略せるように、かつイメージが鮮烈に飛び込んでくるような言葉遣いがいいかと思ひまして、意味合いとしてはまさにおっしゃるとおりでありますけれども、あえて「エコフレンドリーな」という言葉遣いを表紙でさせていただいております。

【森地部会長】 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。どうぞ。

【井口（雅）委員】 井口でございますが、こんなことを最後になって、お願いすることは大変恐縮ですが、今ごろになって気がついてまことに申しわけないんですが、34ページの一番上に「鉄道の技術開発に関わる関係者に期待される役割」で、関係者としてその下に書いてあります公的研究機関、鉄道総研、鉄道事業者、この3者が書いてあるんですが、メーカーも非常に大事な関係者ではないかと思ひます。上の2つは研究機関だし、鉄道事業者というのは基本的にユーザーなんです。それは、研究をやっておられるところがあるのはもちろん、そこが非常に強力であることはもちろんなんですが、基本的にはユ

メーカーです。すると、メーカーをしっかりと書かなければいけないような気がします。最後の最後になって気がつくのは申しわけないんですが、前のページにはいろいろなことがメーカーについては書いてあるんです。だからこれでもいいのかもしれませんが、技術開発のプレーヤーとしてメーカーを位置づけ、しかも、これからメーカーの技術力の強化を相当図らなければ、海外の技術力の進歩に対抗できないと私は思っております。ちょっとすみません、長くなりますが、メーカーは国鉄時代の名残でどうしても今でもJRに「おんぶに抱っこ」とまでは言いませんけれども、それに近いんです。JRだけでは、これから不十分だと思います。メーカーもしっかりしてもらわなきゃいけない。

それでメーカーを見ますと、研究の基盤がしっかりしていないんです。つまり、試験線がないという問題もありますけれども、そのほかの試験装置、試験基準、試験のやり方、それから規格基準が明確でありますね、その辺がみんな製造の基盤になるんです。それが弱い。これはメーカーに任せておいてやれと言っても、なかなか今現状だと難しいので、ある程度国が面倒を見てやらざるを得ない。研究組合だとメーカーと国とが共同してということがありますね。そういう形ででも、その辺の強化をしなければいけないので、もしできれば、次のページの35ページの下のほうが数行あいていますので、その辺にちょっと入れていただければと、お願いいたします。

ありがとうございます。

【森地部会長】 いかがでしょうか。

【大口局長】 そうしましたら、今のご意見につきまして、先生のおっしゃる意味もよくわかると思いますので、34ページの「鉄道事業者に期待される役割」というところに、「鉄道事業者及び鉄道車両メーカーに」というふうにさせていただいて、少しこの3行をそうした含みを持たせるような文章にということもあり得ますけれども、そんな感じでよろしいでしょうか。

【井口（雅）委員】 結構です。ありがとうございます。

【大口局長】 どうでしょうか、ちょっとまだ、よくよく事務方とすり合わせをしながら対応させていただきますが、とりあえずそんな形ではどうでしょうか。

【森地部会長】 ありがとうございます。それじゃ、どうしましょうか。今の間に修文をお考えいただけますか。あるいは後にしますか。

【大口局長】 今修文しないと、ちょっとタイピストの関係で間に合いませんので、ちょっと今、大至急文章をつくりますので。

【森地部会長】 それでは、そのほかどうぞ。

【竹内委員】 いろいろお聞きした結果、やっぱり一番肝心なのは最後の最後なのではないかという気がしました。それは40ページの最後の文章です。「終わりよければすべてよし」ということでもありますので、ちょっと確認といいますが、どういうことなんだろうかということをお聞きしたいんです。最後の の一番最後、「その揺るぎない発展に向けて、共に力を尽くして参りたい」という箇所で、この気持ちは本当によくわかります、私もそう思うんですけども、ただ、これは主語が明確になっていません。鉄道部会が出す文章というものだという判断ならば、鉄道部会が力を尽くしてまいりたいと考えているのか、あるいは国交省鉄道局が考えているのか、あるいは国民と一緒に頑張っていきましょうということか、よくわからないので、主体が何なのかということを確認をお願いしたいんですけれども、いかがでしょうか。

【森地部会長】 どうぞ。

【高橋企画室長】 部会長、ありがとうございます。おっしゃるとおりの意味、第一番目の意味でありまして、この部会の皆様方がぜひ共に力を尽くしていただけたらと、こういう願いで書いております。でありますので、下から2つ目の では「本部会としても、引き続き必要なフォローを行っていくことが適切である」と書いてございます。ちょっと2回書くのが重たいかと思ったので書いていないんですが、ご指摘がございましたら、「これから本部会として」とか、「本部会がこれからも共に力を尽くしてまいりたい」という言葉を入れさせていただけたらと思います。ありがとうございます。

【森地部会長】 よろしいでしょうか。

そのほか、いかがでしょうか。どうぞ。

【伊藤委員】 23ページの第7節、1.の最初の のところで、これは後でつけ加えられたというご説明がありました「循環型社会を支える静脈物流等の」というところですが、これは血管を流れる血液に例えて表現されていると思います。私たちは動脈、静脈両方合わせて脈管系という言い方をしますが、あまり一般的ではないので、動静脈物流というような言い方にはならないでしょうか。

【森地部会長】 交通分野では、わりあいこういう……。

【伊藤委員】 静脈物流という言い方ですね。

【森地部会長】 ええ。

【伊藤委員】 人体の動脈とか静脈とかという表現ではなく使われるということですね。

【森地部会長】 語源はそっちにあるんですけども、前のほうが生活物資、産業物資、こっちが動脈物流と称し、こっちのリサイクル系とごみとか、これを静脈物流と、一般的に交通分野ではそう。

【伊藤委員】 交通分野で使われる表現として了解いたしました。

【森地部会長】 ありがとうございます。

できましたか。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。34ページでございます、「3. 鉄道の技術開発に関わる関係者に期待される役割」がございます。一番最後のところでありましてけれども、「鉄道事業者に期待される役割」というタイトルのところがございますが、例えばここに、「鉄道事業者及びメーカーに期待される役割」といったようなタイトルにさせていただいて、最後のところに、「また、メーカーにおいても、競争力強化のためにも技術開発の基盤強化が望まれる」とか、そんなようなニュアンスでよろしゅうございますか。

【井口（雅）委員】 結構です。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。

【森地部会長】 もう1回言っていただけですか。

【高橋企画室長】 もう一度申し上げます。34ページでございます。4.の直前、3.の一番最後でございますが、「鉄道事業者に期待される役割」という項目がございます。ここを「鉄道事業者及びメーカーに期待される役割」と直させていただきますと、この文章の最後に、「また、メーカーにおいても、競争力強化のためにも技術開発の基盤強化が望まれる」といったような一文を加えさせていただけたらと思います。

もう一度、文章だけ読ませていただきます。ポツまで言います、もう一回読みますと、「また、メーカーにおいても、競争力強化のためにも技術開発の基盤強化が望まれる」。

【森地部会長】 よろしいでしょうか。

【古関委員】 すみません、ちょっと違和感があります。「メーカーにおいても」というのは鉄道事業者と並んでということによろしいかと思いますが、次の「も」が続くという意味で単に違和感があるだけですけれども、「競争力強化のためにも」と言った場合には、ほかの目的が明確にあるということの意味していると思うんですが、それは何になるのでしょうか。

【大口局長】 それは多分、多分というか、明確に前段を受けていまして、多様化する利用者の要請にこたえるのはメーカーとしても意識しろということだと思っておりますけれども。

【潮崎技術開発室長】 よろしいですか。

【森地部会長】 どうぞ。

【潮崎技術開発室長】 メーカーにつきましては、確かにこの中で、例えば33ページに「メーカー間の競争が少なく、自動車分野をはじめとする他の産業分野に比べ」というような記述もございます。全体の中で確かなにはっきりとは書いてはございませんけれども、この産学官連携の中でメーカーそのものの基盤強化が必要だということは全体のトーンとしてありまして、特にここでは、そういうことに加えて「競争力強化のためにも」と、井口先生のご指摘も競争力という観点からやはり切磋琢磨をしてやるということが必要だというふうな意味かと理解しておりますので、今のような表現でどうかということでご提案をさせていただきました。

【森地部会長】 よろしいでしょうか。

【古関委員】 はい。

【森地部会長】 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見がないようですので、今の修正を含めて提言（案）について鉄道部会として了承することにしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【森地部会長】 ありがとうございます。それでは、そう扱わせていただきます。

これをもって、鉄道部会の提言は取りまとめられたわけでございます。前回会合において、私から鉄道に対する国民的な理解と共感を広げていくための取り組み方策を考えていただくようお願いさせていただきました。検討の結果について、事務局より報告していただければと思います。

【高橋企画室長】 部会長、ありがとうございます。資料2としておりますA4の横紙です。一番最後につけております。今日、これ初めてお目にかけます。部会長のお言葉のとおりであります。今、鉄道に、環境をはじめさまざまな意味で光が当たっております。それで、日本のよさとかあるいは日本人らしさとか、たくさん鉄道にいいものが詰まっているので、ぜひそれを広く国民あるいはその利用者の方々に伝えていきたいという思いでございます。

ねらいとしましては、一番上のオレンジの四角のところに書いてございます。今回の交通政策審議会鉄道部会提言の取りまとめにあわせまして、だれでも気軽に活動できる「参

加型ホームページ」を開設して、鉄道の未来を共に考え、鉄道文化を伝える良質の素材、これらを共有することを通じまして、鉄道に対する理解と共感を広げていきたいというねらいでご提案を申し上げます。

それで、いわゆるコアの鉄道ファンの皆様、これも大変、大変大切なんですが、コアの鉄道ファンの皆様のみならず広く国民の方々あるいは利用者、一般の方々、これらに気軽に参加していただきたいという思いでございます。

それで具体的には、「1.参加募集テーマ」というところに4つほど絵と一緒に書かせていただいております。国土交通省にホームページがございますので、便宜上そちらを使わせていただいて、4つのテーマに沿って、ぜひ、だれでも気軽にこの4つのテーマにしたがってアイデアあるいはエピソード等を募集していただきたいということでありまして、寄せられたものにつきましては、国土交通省のホームページで公表させていただきたいということでございます。4つを順次ご説明いたします。

1つ目は、「日本全国鉄道お宝マップ」と題しております。これは例えば鳥取県の若桜鉄道でも、S Lの転車台というのに光を当てると、「ああ、こんないいものがあったのか」ということで、日本全国から転車台をじかに見たいという方々が訪れてくださったり、ちょっと光を当ててさしあげるだけでピカピカと光り出すようなものがございますので、鉄道の駅などの魅力の掘り起こしということで、全国各地の駅等に隠れたお宝をぜひ募集をさせていただきたいと思っております。限定的なものではありませんけれども、由緒正しい芸術品とか、名物、あるいは駅にまつわる歴史とかエピソードなどなど、いろいろなものがあるのかなと思います。

それから2つ目は、おじいちゃんと孫娘の絵がかいてありますけれども、「鉄道を巡る、ちょっといい話」というタイトルにしております。「鉄道魂」あふれる裏方さんとか、あるいは心に残る駅員さん、こんな出会いがあったとか、鉄道をめぐる、印象的な心に残るエピソードなんかをまとめていくと、鉄道のよさ、鉄道文化のよさというのがもう少し広く広がっていきませんか、こんな思いで書かせていただいております。

それから3つ目は、「世界に伝えたい、未来に遺したい、鉄道からの車窓風景特選」と書いております。これは鉄道そのものというよりは、鉄道の車窓から見える、美しく、余情あふれる風景、風土、これらを伝える写真などを募集させていただければいいのかなと。鉄道がいかに我が国の美しい自然や暮らし、風土に溶け込んで、それと一緒に人、あるいは文化を、日本のよさを伝えて運んでいるかというものを、できる限り広い方々に

共有して、伝えていきたいということでもあります。

それから最後、4つ目ではありますが、「あったらいいな、こんな鉄道」、「私にも、一言、言わせて!」というタイトルを書かせていただいておりますけれども、夢のある未来のサービス、夢のある未来の技術、あるいは望ましい鉄道政策などにつきまして、だれでも自由にアイデア、意見を募集をさせていただいて、寄せていただきたいということでもあります。

必ずしもこれに限るものではないんですが、まず4つ、このようなテーマで始めさせていただいて、どんどんまた広げていけばいいのかなというふうに思っています。

下のほうでございます。「表彰等」とございます。基本的に寄せていただいたものはホームページですべて公表させていただきたいと思っておりますけれども、この鉄道部会の方々、あるいは「鉄道の日」を毎年やっておりますので、そちらの実行委員の関係者の方々、これらの中からお願いをさせていただいて選考委員会というのをつくらせていただきまして、応募があったもののうち、特にいいなと思うものを選んでいただいて、例えば「鉄道の日」で表彰したり、「鉄道の日」の展示ブースでパネルでご紹介したり、取りまとめて冊子をつくってお配りをしたりできたらいいなというふうに思っております。

3つ目に、右下に「スケジュール」と書かせていただいております。例えば7月1日にホームページを立ち上げまして、募集の開始をさせていただいて、夏いっぱい皆さん方から寄せていただいて、9月に選考作業をして、10月中旬の「鉄道の日」の関連行事でパネル展示とか冊子の配布、表彰等をさせていただけたらと、こう思っております。

冒頭に申し上げましたが、コアの鉄道ファンの皆様はとても大事なんですけれども、そのような方々をコアとしつつも、だれでも気軽に参加していただいて、とても広いすそ野で国民の皆さんあるいは利用者の皆さんに、広く鉄道のよさ、鉄道文化、鉄道の役割を伝えていければと、こういう思いで事務局としては提案をさせていただきました。

ありがとうございます。

【森地部会長】 よろしいですか。どうもありがとうございます。以上の説明について、何かご質問、ご意見がございましたらどうぞ。

【清野委員】 鉄道事業者ですが、非常にアイデアそのものはいいと思いますし、方向はいいと思います。ただネーミングなんですけど、いろいろご議論なされた上だとは思いますが、我々の場合ですと、「鉄男・鉄子」というとマニアのことを指しちゃうんですね、我々の業界では。あるいはマスコミなんかでも、朝日新聞ですか、「鉄子の鉄学」と

かやっていますし、もう少し広くという今おっしゃったイメージから言えば、最終的には鉄男、鉄子さんが投稿してくるのかもしれませんが、もっと広くという意味からすると、何かもう少し広いイメージのほうがいいんじゃないかなと、これは私の感じですけども。

【森地部会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【高橋企画室長】 会長、ありがとうございます。ここはとても部内でも悩んだところなのでございます。最初は「鉄男・鉄子の部屋」にしていたんですけども、おっしゃるように、最後までコアのマニアの方で閉じたような形になるとよくないので、「鉄男・鉄子のみなさんの部屋」ということで、ちょっと広がりを出させていたこうとしています。

それです、プレスの方も今日はおいでになっていますけれども、世の中にこんなことをやっているということを知っていただくきっかけをつくるために、鉄男・鉄子ということで、おもしろいなと思っていただいて、それで少しずつそ野を広げていけたらという思いで書かせていただいておりますけれども、大事なネーミングですので、皆様方のご意見をちょうだいできたらと思います。

【森地部会長】 どうぞ。

【井口(典)委員】 鉄男・鉄子という名前を見た一般の方が、鉄道のことをイメージしてくれるかどうか不安に思っております。確か「鉄男」という有名な映画のタイトルがあったと思うので、一応、調べておいた方がいいと思います。

中身についてですが、ここにある4つのテーマですけども、何でエコとか技術の話が入っていないのか。つまり今回の提言に関するものがほとんどありませんが、それがちょっと心配です。さらに鉄道マニアじゃなくてだれに訴えかけているのか。どの年齢のどんな人かということが絞り切れていないような気がします。例えば今の若者は、パソコンでホームページを見るよりも、携帯サイトで見ます。その辺のことも考慮されているのか。ちょっと教えていただきたいと思います。

【森地部会長】 どうぞ。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。エコとか技術、提言の内容とどうリンクさせようかというのは、やはりおっしゃるように、悩んだところであります。それで、エコの面で限っていても、あるいは技術の面で限っていてもいいんですけども、やはり最初、間口を広げていったり政策のサブスタンスももちろんですけども、鉄道のよさそのものを広げていきたい、まず鉄道を使ってもらいたい、鉄道のよさをわかってもらいた

い、鉄道を身近に感じていただきたい、あるいはこんなところに日本人のよさというか、日本とか日本人のよさ、国民性そのものが鉄道にとてもたくさんいいところが詰まっているので、そういうところからわかっていていただきたいというところで始めて、1つ目、2つ目、3つ目というのを書かせていただいたので、おっしゃっていただいたエコとか技術とか、そういう側面での話というのは、もちろん4つ目の夢のあるサービスとか、夢のある技術とか、鉄道政策についてのご意見のところたくさんちょうだいできるのかなと思っております。

あと、今すぐ立ち上げられる媒体というのが、私どもはお金もあまりないものですから、役所のホームページでまず取り組みを始めて広げていきたいというのが現段階での考え方でございます。

【森地部会長】 この細かい内容の前に、鉄道部会としてどこまでこんな細かいことをやるのかというのは、ちょっと違和感がある人が多いと思うので、資料3をお配りいただけますか。

【高橋企画室長】 部会長、ありがとうございます。資料2についてのご意見をちょうだいしてからと思いましたが、お言葉でございますので、資料3を配らせていただきます。部会長がおっしゃいますように、細かい中身、ディテールまで今回部会でご議論、あるいはお決めいただくというのもあれですので、資料3を今配らせていただいておりますが、「『参加型 鉄道ホームページ』の開設について」というタイトルにさせていただきます。もしお許しをいただければ、この鉄道部会としてのお考えで、「鉄道の未来を共に考え、鉄道文化を伝える良質の素材を共有すること等を通じて、鉄道に対する理解と共感を広げていくことを目指して、国土交通省において『参加型 鉄道ホームページ』を開設することが適切である」と、こういう根っこの考え方を、もしお許しをいただければ、私どもとしてそれを踏まえて、具体の取り組みを広げさせていただければと思っております。

ありがとうございます。

【森地部会長】 いかがでしょうか。これ自身は問題ないかと思いますが、よろしいでしょうか。

それで、こっちの鉄男・鉄子さんは議論がいくらでもあろうかと思っておりますので、よろしければ、もちろんまだ時間はございますのでご意見はいただきますが、後ほど、ほかの方の印象とかもございますので、事務局のほうに意見を寄せていただいて、また部内で検討

していただければと、そんなことも思います。まだ時間はございますので、どうぞ。

これはほとんど鉄道マニアの場になるんですかね。鉄道マニアの人のお話広場になっちゃうのか。

【高橋企画室長】 事務局としては、そうではなくて、そのような方々もたくさんおいでになると思いますけれども、できる限り広くいただきたいなとは思っています。

【森地部会長】 どうぞ。

【高橋委員】 高橋と申します。視覚障害者の立場で出席しております。いつもしつこくて大変恐縮なんですけれども、まず1点は、このホームページで募集をするページがバリアフリーなページであるように、ぜひ、お役所のページなので大丈夫かとは思いますが、チェックが受けられる体制というか、そういうようなところに委託してページを作成していただければと思います。

それからもう1点は、言おうかどうしようかすごい悩んでいるんですけれども、せっかく今回バリアフリーということをかなりこの提言にも、かなりというか、私としてはいろいろと考えを盛り込んでいただいて大変うれしく思っていますので、鉄道マニアということにしてしまわないためにも、いろいろな人が使える鉄道というような切り口で、何か、2番目のテーマがそれにかなり近いかとは思いますが、もうちょっと上手に、こんなふうにも使えたみたい、こんなふうには鉄道を使ってうれしかったみたい、話も募集できるような切り口ができたらいいなかなというふうにも、今、ちょっと思っていました。

以上です。抽象的すみません。

【森地部会長】 ありがとうございます。

中川委員、どうぞ。

【中川委員】 JR東海の中川でございます。細かいことをちょっと申し上げるようですが、4番目の「一言、言わせて!」は、書き込まれたものを全部公表するというようなお話をされたように伺ったんですが、一般的にこういうものは、企画の意図から大きくかけ離れた意見も書き込まれるケースも考えられて、そうなったときに、このホームページ自体が混乱しないのかなということをちょっと心配していたんですが、いかがなものでしょうか。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。そこは大変我々として悩んだところで、いわゆる書き込み自由の、本当にもう何でもやってください、任せますといったようなことではなくて、メール等でお寄せいただいたものを、公序良俗という言葉はかたいんですけど

れども、こういうのはさすがにそのまま載せてはいけないなというものは私どものほうでスクリーニングをしまして、価値判断は入れませんけれども、あまりにというものはお載せしないということでもあります。

ご意見の向きは、それは私どもが勝手に選んじゃいけませんので、ただ、申し上げたようなことはきちんとスクリーニングをかけて、私どもの手を通してお載せをする、こんなふうを考えております。

それからお許しいただけたら、先ほどからこの部屋のタイトルについていろいろご意見をちょうだいしています。コアの鉄道ファンの皆様方に限られた感じにしないという意味で、例えば1つのアイデアとして「鉄男・鉄子・みなさんの部屋」とか、あるいは「鉄男・鉄子そしてみなさんの部屋」、何かちょっと広がりを出させていただくというのはいかがでございましょうか。

【森地部会長】 どうぞ。

【仁志田委員】 私はなかなかいいアイデアだと思うんですけども、それで皆さんやっぱ、そういうマニアが書くんじゃないかという心配をされていると思いますが、私は鉄道というのは、ここで言っている鉄道文化ということで切り口を明確にしていって、あまり技術的な話とか具体的な政策的な、鉄道経営についてどうかそういうことじゃなくて、特にこの2番目の話だと思うんですけども、町おこしの1つというか、そういうやり方で、皆さんご存じのとおり石川県でしたか、丸岡町は一筆啓上の「日本一短い手紙」とか、それから四国の城川という、合併しちゃったんですけども、ここはかまぼこにかいた絵とか、非常に感動的だったんですけども、この間、福島で両方のコラボ展があったんです。それから桜にまつわる作文といいですか、文章を募集するとか、福島県では野口英世が有名ですけども、野口英世の母を思う手紙とか、野口英世の母が書いた手紙ですが、そういうようなことを募集していますが、私は鉄道に関する思い出というか、ここに書いてあるような鉄道をめぐる話というようなこと、これなんかは、やり方によってかなり一般の人が募集に応じるんじゃないか、鉄道に関する思い出の1つや2つ、それも忘れがたいといいですか、そういう思い出を持つ人は多いと思うんです。ですから、そういうところを前面にというか、重点にしていく、あるいはやり方によって、何も「てっちゃん」というか、そういうマニアだけが投稿するという話にはならないんじゃないか。まさに鉄道文化というのは生活に密着しているという、だから鉄道は非常に根強いファンがいるんだと僕は思うんです。ですから、それをもっと強く出すような参加型のホームページ

ができれば、私はマニアだけのものにならないというふうに思っております。

【森地部会長】 ありがとうございます。私は誤解を受けるようなことを言っちゃったかもわかりませんが、鉄道マニアは大変ありがたい存在で、排除するという気で申し上げたんでは毛頭ございません。

それで、この のところは車窓風景だけなんですか。鉄道のいい写真というのは、みんなわりあい好きなんですけれども。

【大口局長】 実は、「鉄道の日」の記念事業としまして、鉄道・運輸整備機構が毎年、鉄道がどこかに入っているような風景を募集してしまして、必ず大臣表彰とかいろいろなものをやっているんですね。したがって、鉄道がどこかに入っている外から撮る写真というのは、実はそういう一つのジャンルがあるものですから、気楽に今、乗っている方がみずからの車窓から、何かデジカメでも携帯からでも撮ったもので、このアングルがいいんだということが評判になれば、その電車に乗ったときにその窓から見てみるというようなインパクトがあるかなということを若手が議論しまして、それで若手の議論としてちょっとお諮りしてみようというような形になったのでございます。

【森地部会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【竹内委員】 私も についてちょっと思ったことがあります。募集して表彰というときに、入賞者に順位をつける、例えば1等2等3等とか、金銀銅でも松竹梅でも何でもいいんですけれども、そうやって順番をつけるということになると、当然技量を持った人間が上のほうに来ることになります。それがイコール「てっちゃん」であるのか、純粹にカメラの技術がすごいという人であるのか、それはわからないんですが、とにかく競争になってしまうと、そういう人が有利になる。そうなる必然的に、技術はすごく劣っているんだけども素朴でいいものが取り上げられなくなるのではないかと。私もこういう審査の経験があるものですから思うんですけれども、見せるのがうまい人というのは本当にいます。つまり、賞をとるための技術をちゃんと持っているプロはだしのアマチュアの方はいっぱいいらっしゃる。

ですから、あまり競い合わせて順番をつけるというようなことをすると、本当に素朴ないいものが排除されてしまうのではないかと思います。確かに、そういう見せるための写真でも実際に私も見ると感動を与えてくれるので、それはそれで本当に評価すべきものですが、そればかりに席卷されてしまうのも多分本意ではないのだらうと思います。です

から、そのあたりは工夫をしないと、やはり通常の写真コンテストと単純にイコールになってしまうのもまずいかなという気がします。その点をご配慮いただければと思います。

【森地部会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【宮下委員】 こういった参加型の、いわゆる募集する、このことについて何ら否定するものではありませんけれども、それぞれ各事業者の方もいろいろ、各社でホームページを立ち上げて、いろいろそういう意見もお伺いしていると思うんですけども、今回こういったさまざまな意見を募集すると、「ちょっといい話」ですけども、「ちょっと悪い話」があったらどうするのかという心配がありまして、その辺が国土交通省と事業者の間でどうなのか、そういったことをちょっと、私が心配しなくてもいいんですけども、それは関係ないというふうに受けとめていいのかなと、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

【森地部会長】 どうぞ。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。ここでは「ちょっといい話」の、鉄道文化のよさを伝えていくという趣旨でございますので、基本的には何か悪口になったり、あるいは苦情みたいなことになったりというのは、ここにお載せするという事ではないのかなと思います。

ただ、きちっと対応しなきゃならない利用者の方からの苦情というのは、別途行政の施策として苦情にきちっと対応するというシステムの中でやらせていただけたらと思います。

それから、先ほどからご指摘をちょうだいしていて、「鉄道を巡る、ちょっといい話」で例えばバリアフリーの観点から、だれでもいろいろな人が使えるこんな鉄道のよさというエピソードとか、あるいは町や人と鉄道とのかかわりとか、そんな具体的なイメージの広がりが出せるような書き方をまたさせていただけたらと思いますし、それから写真のことにつきましても、募集の段階での工夫、あるいは選考の段階での工夫というのも大変必要なのかなと思われまます。

【大口局長】 今、ご指摘いただいたことは大変大事だと思っております、鉄道というのはやはり、今のこの世の中の1、2、3とか、あるいはすべて数値化することにならない部分で、大変私も鉄道文化というのは、文化というか、鉄道というものは貢献しているんじゃないかと思っております。したがって、これについても例えばどのお宝が1番だとか、そういうとらえ方じゃなくて、ある意味ではざっくりというか、あるいはほんわかというか、こういうものがあるんだという、何ていうんでしょうか、いろいろ

るな方々がそういう切り口で関心を持っていただけるというような編集の仕方を心がけたというふうに、事務方としては議論の中で思っております。

今後もこういうことについて、まず出発するときはこのようなところでやりますけれども、またいろいろな試行錯誤もあるかと思いますが、温かく育てていけたらいいというのが、私どもが若手からいろいろ議論を聞きながら感じたところでございます。

【森地部会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【垂水委員】 このホームページを見ると、今回まとめた資料が当然見れるわけですね。それで、この4つについては特に意見はありませんけれども、ここでまとめたものについての意見を、関心のある人が相当読んでいろいろ質問してくると思うんですが、それはまた別途そういうものを受け入れるということでもいいんでしょうか。かなりの質問が相当出てくるのではないかと思います。今、この4つでこれぐらいの議論ですから、この本文になれば相当の議論が出てきて、省でそれについて答えていいものなのか、部会が関係するのか、そちらのほうが大きいような気がしますけれども、どういうふうにお考えなのか。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。このホームページ、基本的には国土交通省のほうでやらせていただきたいとは思っておりますけれども、今のお話で、部会のご提言について、やはり部会の皆様方のご意見を伺わないといけない、あるいは部会長、小委員長等々ご専門の方々のご意見を伺わないと、私どもとしても責任のある対応にならないというような場合については、当然お諮りをしたり、お伺いをしたりしながらだと思えます。

いずれにせよ、この参加型鉄道ホームページリンクをさせて、あるいは参加型鉄道ホームページの中から提言が見られるようにしておいて、この提言についてご意見をちょうだいするのであれば、それは当然私どもとして、簡単に答えるものはお答えしていきますし、お諮りをしたほうがよろしいものは、またある機会をとらえてまとめてお諮りをしていく、そんなことだと思えます。

【垂水委員】 ということは、積極的にこれについてご意見をいただきたいというようなコメントを記述するという事ではないということですか。

【大口局長】 私ども国交省のホームページに、こういう提言なり答申が出たときは必ず載ることになっていまして、それについてまた意見をちょうだいするようなシステムになっています。したがって、提言、答申についてはホームページで、我々はまずそのルートから意見もきちんといただこうと思っております。いろいろな意見もまた集約しながら

ら今後の行政に反映していきたいと思っております。

今回のこれは、そういう一つの提言の流れと同時に、もっともっと広くいろいろな方々に関心を持っていただく。その流れとして、こういうものも立ち上げたらどうかというようなお話でございます。この4つぐらいのテーマで1回やってみて、そこにもまたちゃんと今回の提言のところにもリンクできるような切り口にしておきたいと、こう思っております。

【垂水委員】 わかりました。

【森地部会長】 どうぞ。

【伊藤委員】 このホームページに関して、1つ感想を述べさせていただきます。これはかなりよくできていて、こちらが意図しているような鉄道利用者の声が程よい具合に集まると思います。それは、鉄道の写真を募集するとか、鉄道車両に関する意見を聞かせてほしいというようなホームページではないために、いわゆるマニアと言われている鉄男とか鉄子の興味が微妙に外しているところがあるからです。あの車両がいいとか悪いとか、そのあたりの内容がマニアックな方向へいかずに、本当の利用者の声として集めやすいのではと思いました。

【森地部会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【高橋委員】 素人の感覚なんですけれども、この参加型鉄道ホームページについてですが、鉄道と言ってしまうと、そこでちょっと「うっ、マニア」という感じが私はするし、多分世の中にもそういう印象を与えるんじゃないか。もちろん、鉄道という言葉を使うのはいいんですけれども、それよりも電車とか新幹線とか貨物列車というか、何でもいいんですが、具体的にそういう、鉄道と言うとすごい感になるので、そのような言葉遣いを前面にして、鉄道というのを少し薄めると一般向けっぽいイメージになるのではないかと思います。

以上です。

【森地部会長】 ありがとうございます。多分、ホームページをつくる時に写真を入れたり絵を入れたりするんでしょう。

【高橋企画室長】 はい。ありがとうございます。新幹線とか、ちょっと一部分で表現してしまうと拾い切れないので、鉄道文化とか、いろいろ広がりを持って鉄道という言葉を使いますが、ただ、部会長がおっしゃるように、親しみやすいいろいろな写真とかを工

夫して、入ってこれやすいようなことにさせていただけたらと。

【森地部会長】 どうぞ。

【服部代理】 鉄道の理解を深めるためにホームページに出してみんなの意見を見れるのは、非常にいいことだと思う。その中では特に、日本の鉄道文化というのを、よさをいろいろ出しながらやるんですけども、特に は「日本のお宝」、 は「世界に伝えたい」、あるいは「我が国の美しい」と書いてありますが、「世界のお宝」、あるいは「世界の鉄道から見た美しい」など、鉄道を広く理解するというためには世界も入れたカテゴリーも入るのかなと思ったんですが、それは特に日本に限定するようなお考えなのかどうかということですけども。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。世界にもたくさんいいものがあると思うんですけども、ただ、まず足元からといいますか、身近に、あるいはお隣のところでこないいいものがあつた、あるいは日本人が日本の中で、それから暮らしの中で生かして行って、暮らしをつくっていく鉄道はこんなにいいものなんだなという思いを広げていくためには、まず日本の中からというのも考え方かなと思ひまして、こう書きました。

【森地部会長】 外国人は投稿しないわけですか。(笑)

それからあれですか、各社がホームページを持っておられるでしょう、そういうところとはつながっているんですか。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。もし各社さんからご要望があれば、1つずつご相談させていただいてということによろしゅうございますでしょうか。今のところ、まず何かシステムチックにという考えまではないんですけども、ご要望とかご要請に応じて、いかがでしょうか。

【森地部会長】 それから宣伝めいて恐縮ですが、今回の提言については、我々の運輸政策研究機構のホームページに、鉄道事業者の方と意見交換するような仕組みをもつています。そこに載せると、登録していただいている会社の方が、役所にこういうことが問題だとか、あるいはこれは変だとか、もっとこうやったほうがいいとかいう意見をいただいて、それを我々の研究機構と、それからそれをお役所にもお伝えして、お役所からも見解をもらって答えるという、こんな仕組みを持っていますので、そこにも載せていただくようお願いをしております。

よろしいでしょうか。もしこの後も、今日閉会してからも何かご意見がございましたら、ぜひ事務局のほうにお寄せいただきたいと思います。

どうぞ。

【高橋企画室長】 大変ありがとうございます。いろいろな着想をいただきました。タイトルの副題なんですけれども、例えば「鉄男・鉄子・みなさんの部屋」とか、それでちょっとまず第一歩を踏み出させていただいて、集まり方の感じも見て、またいいものに変えさせていただいたり、言葉を加えさせていただいたらいかがでございましょうか。

【森地部会長】 さっき申しましたように、我々としては資料3の提言をするということまでで、あとはお任せをしたいと思います。

それでよろしいでしょうか。以上で、本日の議題についての議論を一通り終了いたしました。事務局から連絡事項等があればよろしくお願いたします。

【高橋企画室長】 ありがとうございます。提言の議事は部会長がおっしゃったように、すべて終了していただきましてありがとうございます。最後に配らせていただきましたのは、事務的な確認までの紙でございます。先ほどご意見を2点ちょうだいしております、「鉄道の技術開発に関わる関係者に期待される役割」のところで、赤い字で書かせていただいております。高橋委員におかれましては、もう一度だけお読みします。「鉄道事業者及びメーカーに期待される役割」というタイトルで、一番最後のところに、「また、メーカーにおいても、競争力強化のためにも技術開発の基盤強化が望まれる」という文章を入れました。

それから最後に、第5章「終わりに」というのがございますが、最後の のところで「本部会として」という言葉を入れまして、「本部会として、これからも、鉄道の明日を見守り、その揺るぎない発展に向けて、共に力を尽くして参りたい」という表現にさせていただきました。ありがとうございます。

以上でございます。

【森地部会長】 どうもありがとうございました。

それでは大口局長、よろしくお願いたします。

【大口局長】 長い時間ご議論を賜りまして、ありがとうございます。おかげさまで、1年数カ月ご議論をちょうだいしまして、本日ここにまとまりましたこの提言をもとに、私どもとしてもこの大きく変わっていく社会経済の中で、鉄道行政についてしっかりと地に足をつけながら、今日ご出席の鉄道にかかわる事業者の方々とともに、しっかりと行政に邁進していきたいと思っております。

最後に、先生方の貴重なお時間を何回も何回も賜りましたことにつきまして、厚く厚く

御礼を申し上げまして、簡単でございますけれども、御礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

【森地部会長】 どうもありがとうございました。

ここで、ネットワークサービス小委員会の議論を取りまとめいただいた山内先生からも、一言お願いいたします。

【山内部会長代理】 山内でございます。今日のこの報告書を見ると、最初の部会を開いたのはちょうど2年前ということで、ネットワーク小委員会を始めたのは1年以上前ということだと思います。多分2年前には、原油も高かったですけど、ここまで高くなっていなかったし、それからCO₂の問題も、もちろん議論はありましたけれども、今ほどに盛大に議論されていなかったということだと思います。交通、運輸の分野というのはエネルギーの大変革をもしかしたら迎えるかもしれない、そういうときにこういう提言ができて、まさに鉄道のエコ、それからそれを国民的な運動にまでするというようなことになりました。まさに皆様のおかげでネットワーク小委員会も何とか提言をまとめることができました。時宜を得たものだということを申し上げると同時に、皆様に御礼を申し上げて、ごあいさつにさせていただきます。

どうもありがとうございました。

【森地部会長】 どうもありがとうございました。私からも一言御礼を申し上げたいと思います。冒頭、局長から何でも議論をしていいと、こういうことからスタートをしたと思います。私は調子に乗って随分失礼なことも申し上げたり、レポートがまとまる直前にスタンスがおかしいなんていう話を局長と議論をさせていただいたりいたしました。たくさんの方に随分突っ込んだ議論をいただいて、本当にありがとうございました。ポリュームが限られておりますから、全部の話はとても入れられません。しかしながら、その中でいただいた議論、特に技術部会のほうはこれからさらに全体を取りまとめるような作業もしていただくということでございます。今後ともまたいろいろな意味でご尽力を賜るかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。本当にありがとうございました。

それでは、これにて閉会といたします。大変ありがとうございました。

了